

ゴムの木の手入れ法

ゴムの木はもともと熱帯地方に育つ、高温多湿な環境を好む常緑の高木。日本の四季では、上手に手入れしないと枯れてしまいます。

温度は5℃以上が必要。また昼と夜の温度差が大きすぎるのも問題で、15℃以内に抑えること。冬の昼間に20℃以上の環境に置くと、新陳代謝が盛んになり、働きすぎて夜の冷え込みに対する抵抗力が弱まります。かさかさに乾燥した部屋では植物からどんどん水分が奪われます。土の表面が白っぽく乾いたら、毎日でも水を与えること。

木の大きさに対して鉢が小さすぎるのも良くないことで

す。鉢から抜いて根をほぐし、長いものはいくぶん切りつめます。同時に土も新しくします。土は、荒木田（田土ともいう）か庭土に、腐葉土又はピートと粗めの川砂を混ぜたもの。肥料は過燐酸石灰、石灰、遅効性化学粒状肥料などを少し加えます。植え替え後の2、3週間は日陰に置いて下さい。

大きくなりすぎたりして見苦しくなってきた場合は、取り木で形を整えます。気温が20℃以上になり鉢植えを戸外に出しておける季節になってから。7月末までに取り木をかければ、秋のうちに鉢植えが出来ます。

（三ツ星ベルト(株) 野口 徹）